

陶磁器意匠研究所 依頼試験 よくある質問

【両試験共通】

Q1 市外（遠方）からでも依頼することはできますか？

A1 できます。

検体と依頼書をお送りください。

送料はお客様に負担していただきます。（返送は着払いです。）

検体の廃棄は承りかねますのでご了承ください。

Q2 英語で結果通知書をもらえますか？

A2 できます。

依頼書に、ご依頼者名と検体名の英語表記を明記し、備考欄に英語での結果通知書を希望の旨、お書き添えください。

申請方法は、通常通りです。

英語表記と日本語表記と両方必要な場合は、片方が再発行扱いになりますので、再発行手数料（300円/枚）をいただきます。

Q3 検体はいくつ必要ですか？

A3 食品衛生法に則った溶出試験、スポーリング試験いずれも1検体あれば、試験可能です。

同一検体で両試験を希望される場合、溶出試験を終えてからスポーリング試験を行いますので、少し時間がかかります。

Q4 個人作家ですが、依頼できますか？

A4 できます。

Q5 料金はいくらですか？

A5 溶出試験 520円/検体、スポーリング試験 1,570円/検体です。

（令和2年9月現在）

【溶出試験】

Q1 どんな試験をするのですか？

A1 食品衛生法に則った方法で行います。

お預かりした検体の中（食品が触れる部分）に、4%の酢酸を浸して、24時間静置した後、酢酸溶液の中の鉛やカドミウムの濃度を測定します。

4%は、食品のお酢と同じくらいの酢酸濃度です。

Q2 試験は義務ですか？試験を受けないとどうなりますか？

A2 試験は義務ではありません。

試験を受けていないからと言って罰せられることはありません。

しかし、食品衛生法の中で、規定値を満たしていないものは、販売または販売目的で製造してはいけないとされています。これに違反すると、強制回収等になることがあります。

釉薬、素地、焼成条件等の変化により、製品の状態が変わってきますので、定期的な検査をお勧めいたします。

Q3 どんなものが対象ですか？

A3 飲食器や調理器具をはじめとする、食品と直接接触するものが対象です。

陶磁器やホウロウなど、素材によって試験方法や基準値が異なります。

陶磁器意匠研究所では、陶磁器、ガラス、ホウロウの試験が可能です。

Q4 急須の茶こしやサーバーコックの金属部分は対象ですか？

A4 対象です。

試験方法が異なりますので、陶磁器意匠研究所では試験できません。

Q5 時間はどのくらいかかりますか？

A5 3日から4日で、結果通知書を発行します。

Q6 「食品衛生法 食品、添加物等の規格基準」に適合している旨の証明書の発行はできますか？

A6 証明書の発行はできません。

証明書の発行は、厚生労働大臣に認められた登録検査機関に限られており、当研究所は該当機関ではありません。

食品衛生法に準じた検査方法で試験した値を「結果通知書」に記載しますので、「食品、添加物等の規格基準」に照らし合わせ、ご確認ください。

Q7 食品衛生法の規格に適合させるためにはどうすればいいですか？

A7 以下のことに注意して下さい。

〔釉薬〕

- ・ 使用する釉薬に、極力鉛カドミウムを使用しないようにしましょう。
- ・ 鉛やカドミウムを含む釉薬を使用する場合は、十分に高温で焼成しましょう。

〔上絵具〕

食品と接触する部分（食器の内側等）に使う上絵付用の絵具やフリットは、無鉛の物に切り替える等、原材料の見直しを行いましょう。

《有鉛絵具を使う場合》

- ・ 有鉛絵具の使用面積を小さくするようなデザインにしましょう。
- ・ 上絵に適切なセーフティ・コートを施すなど工夫しましょう。
- ・ 指定の温度できちんと焼成しましょう。
- ・ 転写の重ね貼りは避けましょう。

【スポーリング試験】

Q1 どんな試験をするのですか？

A1 日本産業規格 (JIS) に則った方法で行います。

お預かりした検体を、一定の温度差になるようにあらかじめ温めておき、水に浸けて急冷した後、割れ、欠け、ヒビを目視で確認します。

120℃差の試験をする場合、水温が 25℃ならば検体を 145℃に温めます。

試験の前と後に、染料を塗布して、割れ、欠け、ヒビを確認します。

【参照】 JIS S 2400 陶磁器製耐熱食器, JIS S 2030 耐熱ガラス製食器

Q2 電子レンジ対応と言うには何℃の試験をすればよいですか？

A2 スポーリング試験で何℃の試験を行っても、電子レンジ対応とは言えません。

現在、電子レンジ対応の基準はありません。

Q3 IH に対応した試験はありますか？

A3 土鍋については基準がありません。

金属鍋に関しては、一般社団法人製品安全協会が制定する SG マーク制度によって基準が設けられています。

Q4 割れ、欠け、ヒビを抑えるためにはどうしたらよいですか？

A4 以下のことに注意してください

〔熱膨張率〕

釉薬と素地の熱膨張率が程よく合うように調整しましょう。

釉薬や素地の熱膨張率は、含まれる成分（シリカ、アルミナ、カルシウム等の割合）を変えることで調整できます。

※ 熱膨張とは、温められたときに物質の体積が増す現象のことです。冷めると体積は戻るため、接触している釉薬と素地の熱膨張率が極端に異なると割れや欠け、ヒビが生じます。

〔形状〕

極端に厚みの異なる形状は、避けましょう。

〔成型方法〕

- ・ マグカップなどの把手は、丁寧にしっかりつけましょう。
- ・ 鑄込み口は、丁寧に処理して整えましょう。
- ・ 釉薬にピンホールができないように仕上げましょう。